

銀杏

発行所

〒792-0835

新居浜市山根町8番1号

曹洞宗瑞應寺専門僧堂

編集発行人 村上 徳 存

電話(0897)41-6563

FAX(0897)40-3127

毎月1日発行

(振替 01330-2-31918)

瑞 應 寺

印刷所 東田印刷株式会社

コロナ禍中——雨滴声——

守塔 村上 徳 存

一昨年は、広島、岡山、愛媛各県で、市街地近く河川氾濫、堤防決壊、浸食で、雨水が、市街地へ流入し、多くの住宅地が被災し、人命も失われた。

今年は、七月上旬、梅雨前線停滞中で数日間、雨天が続いた。静岡県、熱海の山林で土石流が発生し、市街地を襲って、死者九名、不明者二十二名の犠牲者がある模様。

各市町村には、災害に備

えて、崖崩、傾斜地のハザードマップがあるのであるが、想定外の雨量に達して、土石流を引起した。

中国、唐時代の雪峰義存(八二二〜九〇八)の弟子に、鏡清道怱(八六八〜九三七)が居られた。雲門文樞(八六四〜九四九)の兄弟弟子である。

鏡清道怱と修行僧の「雨滴声」(雨垂れの音)の問答が残されている。

鏡清は僧に問う。

「門外、是れ什麼の声ぞ」
僧云く。

「雨滴声。」
清云く。

「衆生、顛倒して、己に迷うて、物を逐う。」

人々は、物の見方が間違つて、迷うて、無常である現実を常に動かないものと見ている。

すると、僧は

「和尚、作麼生。」

和尚さんはどうですかと問う。

清云く。

「洎んど、己に迷わず。」

俺は迷わないよ。と

僧云く

「己に迷わず、意旨如何。」

己に迷わずという根本の意はどうですか。

清云く

「出身は猶お易かるべし、脱体の道は難かるべし。」

出身というのは、その物の本体を見抜くこと、そのも

のは簡単なことであるが、その本体は何かということを行うことは中々むずかしいことである。

窓外に落ちる、雨だれの音を如何に聞かかを提示している。

古人は、「若し、結跏趺坐、身心證三昧、鳳声水音、全体現成、会すや」と示されている。

佛國山瑞應寺の境内の山水は豊かであり、山の景色は、花尾山を背に、千古の緑を湛え、潺々たる溪水は滔々として、流れている。大門頭には、二八世孝如方丈の筆になる。

「溪声更是廣長舌、山色豈非清淨身」

の石柱が建てられている。修行僧や、檀信徒は、この溪声と山色に迎えられて、上山するのである。

コロナ禍中であり、未だ、感染症、ウィルスの収束は

みえず、新型ウィルスの拡大も危惧、緊急事態宣言が発出される。八月廿一日迄、自粛、自宅待機が要請せられ、大規模な集会やイベントは中止せられている。

当山二八世慈雲孝如方丈は、昭和五年、松浦方丈の示寂遷化後に住職、昭和二十年終戦の年、九月二十五日、七十四才で遷化される。丁度、十五年間の住山となる。

生前「雨奇晴好菴」と号して筆道を揮った。

「雨に霞む佛國山の山景も奇し、晴れても好し」と。

此度、東堂老師の発願により、養老庵、白眉殿が改築されるに当り、銀杏に発表した。因みに、先輩方や、元安居の方々より励ましのお言葉を頂戴し時節因縁を実感し、感謝申し上げる次第である。 合掌 低頭

テレホン法話 (〇八九七) 四一・〇〇三三

禪のたより

◆自分という壁を
取はらえば

皆さんは、登場人物同士の心が入れ替わるというストーリーの映画やドラマを見たことはありませんか？私が大学生の頃、お父さんと娘さんの心が入れ替わってしまうという面白いドラマがありました。

ある日、お父さんと娘さんが事故に遭い、病院で目が覚めたら、二人の心が入れ替わっていて、娘さんがお父さんの姿で会社の会議に出たり、お父さんが娘さんの姿で学校の試験に臨むというお話でした。

つい最近も、刑事と犯人の心が入れ替わるドラマが人気だったそうですから、誰しもが面白く感じる設定なのでしょうね。

ところが、「そんなことは理解できない」と言った人がいました。それは誰かというと、実は、私のお友達のインド人です。

彼は「たとえ心が入れ替わったとしても、記憶まで入れ替わることはあり得ないんだ」と言うの

です。「なぜなら、心と記憶は別々なんだよ。記憶はどこにある？と聞かれたら、頭の中にあるよね。では、心はどうだろう。頭の中にあるとは言わないよね。

だから、心と記憶は別々で、たとえ心が入れ替わったとしても、記憶は頭の中から動かないから、入れ替わりには気が付かないんだ。実は、僕たちの心は常に入れ替わっていて、誰もが重なり合っているんだよ」と言うのです。

私は、彼の話を聞きながら「これは私が説明の仕方を間違えたのかもしれないぞ。どうやら彼は心という言葉と魂という言葉と同じ意味だと思ってしまったらしい。それにしても、いろんな考え方があってものだなあ」と感心すると同時に、坐禅を指導する時のことを思い出しました。

私は「坐禅をする前に、必要のないものは全て置いてきてください。名前をお呼びすることはないので、名前も置いてきてください。過去のことも問いませんので、記憶も置いてきてください。そうすると、名前も、記憶

も、体も、心も、自分というものが無くなって、まっさらな姿になります。そうすると、自分というものがスッと抜け落ちて、自分と他人を隔てていた境目がなくなつて、皆と等しく繋がれるのです」と説明しています。

ドラマのように、心が入れ替わるというのはなんとも不思議な話ですが、インドの友人が言うように、心が知らぬ間にいつも入れ替わっているというのも、また不思議な話ですね。

いつも入れ替わっているかどうかまではさすがに分かりませんが、自分と皆とが等しく繋がっているというのは、とても素晴らしいことですね。いつでも、どこでも、どんなときも繋がっているお互いだという思いやりの気持ちをもって、支え合っていきたいものですね。

徳島県 城満寺 田村航也 師
令和三年六月二十一日～三十日

◆帰家穩坐

禪語に「きかおんざ帰家穩坐」という言葉があります。文字通りには家に帰って穏やかに坐するということです。坐禅をして本来の自分に立ち戻るといふ意味があるよ

うで、ただゆったり坐するというだけではないようです。

私が子供の頃は、じつと家にいることはなかったように思います。下校後や休日は大抵友達のところ遊びに行き、勉強はおろか、本を読むということもかなり成長するまでしなかったように記憶しています。

ところが、現代の子どもたちは学校から帰宅するとカバンをおろして、じつと座っています。ただし、勉強をしたり読書をして

昨年からのコロナウイルスの影響で家の中で自粛をしていなければならぬ時間が多く、そろそろ子供だけではなく大人も我慢の限界がきているという声もよく聞きます。たしかにウイルスとの戦いは長く、いつまで辛抱しなければならぬのかという憤りも理解できます。しかし無謀な行動をしても事態は好転しないでしょう。やはり、できるだけ密を避け、ウイルスを拡散させないよう努めることが大切なように思います。

ただし、自粛という不毛とも思える時間も人生の大切な時間です。坐禅をするときまではいかなくても、自分を見つめ直すよい機会と捉えて過ごすのも一つの積極的なあり方ではないかと思えます。ワクチン接種もはじまったことで来年にはウイルスも収まり、次第にもとの生活に戻るかもしれません。それにむけて何か勉強をして資格を取得するもよく、自分を成長させる時間にするのもできるかもしれません。毎日の時間を大切に過ごしたいですね。

瑞應寺専門僧堂

監事 村上 徳樹

令和三年七月一日～十日

祝賀道喜首座

綠樹陰濃瑞色鮮
翻身慶快坐芳筵
拈華微笑拳揚去
佛國山中耕福田

堂頭德存

法戰祝語

刹竿高豎報恩筵
佛國山中酌法泉
參得拈華微笑話
安居慶讚道心堅

知殿圭太

法戰祝語

隨緣今夏道心新
選仏堂中法戰辰
仰見碧天雲片々
滿山瑞氣坐清新

書記龍慈

夏安居

萬緣南薰戸半開
涼風鐘鼓送春來
庭前笑向人間事
歩々登高古梵臺

菜頭利貴

法戰祝語

一路好風撩乱吹
青々綠樹夏雲滋
報恩法戰盛筵座
面目新晴花発時

鐘司慧岳

法戰祝語

孤峯高立瑞雲披
百尺竿頭第一枝
法戰場中竜象衆
滿堂歡喜好風吹

堂行宏真

法戰祝語

瑞心僧堂再現真
行持綿密自安身
拈華微笑活消息
法戰一場修証新

方行光暉

法戰祝語

隨流得妙有輝光
生死海中縁一場
賀宴滿堂仙鶴舞
法輪高転祝歌長

菜頭德正

賀道喜首座法戰

世尊曾設雨安居
今夏迎君行一如
高舉拈華微笑話
喚兄應弟道情舒

侍者信宏

夏安居

清風吹起聽新蟬
佛國山中慕古賢
坐草閑人游法界
安居瑞応道心堅

首座道喜

法戰祝語

法鼓鐘声古寺中
清心宿志一花融
革新相憶僧堂裏
願力金剛道念隆

鐘司孝道

法戰祝語

梅雨乍晴心月輝
安居佛國逞禪威
蛟龍翔鳳競爭玉
瑞応叢林展大機

単頭行秀鳳

法戰祝語

雨洗群峰滿目新
清風瑞氣白雲親
拈華微笑商量活
道喜玲瓏玄覺人

辦事英俊

詩
偈



■法戦式

今夏制中、岡部道喜士の法戦式が七月二日に修行され、「永平頌古・拈華微笑之話」に就いて法問を戦わせた。当日は、僧堂諸役寮師、梅花講、和敬会等随喜した。また、前晚は村上山主による本則提唱も行われた。

■恵光忌・大玄忌正當

七月十日、当山元西堂、橋本恵光老師の示寂忌正當諷經を小林知殿の献供により、楞嚴会朝課罷に嚴修。七月廿日には当山二十九世栖崎一光老師の示寂忌正當諷經を門原単頭のもと勤めた。

白眉殿進捗状況

写真の通り工事が進んでおります。



法戦式



七月の日鑑

- 一日 祝禱
- 二日 本則行茶
- 三日 首座法戦式
- 四日 日曜参禅会
- 六日 参玄会(八日迄)
- 七日 ヘルモニ一合同慰霊祭
- 十日 恵光忌
- 十五日 祝禱・略布薩
- 十六日 水供養
- 十八日 観音講・勉強会
- 廿日 大玄忌
- 廿六日 筆供養・弁天大祭
- 卅一日 略布薩

八月の予定

- 一日 祝禱
- 二日 日曜参禅会
- 四日 大施食会
- 四日 住友展墓
- 九日 土地堂念誦
- 十日 小参・人事行礼
- 十五日 楞嚴会満散
- 十五日 祝禱・略布薩
- 十六日 水施食
- 十八日 観音講・勉強会
- 卅一日 略布薩

銀杏感謝録

- 岡山県 成興寺殿
- 山口県 洞泉寺殿
- 北海道 大高勇殿
- 北海道 普音寺殿
- 北海道 養福寺殿
- 北海道 龍徳寺殿
- 北海道 長福寺殿
- 北海道 明福寺殿
- 神奈川県 泰翁寺殿
- 広島県 慶雲寺殿
- 愛媛県 (株)澄心斎殿
- 千葉県 高垣睦城殿

(令和三年五月十八日受付迄)



鐘 声

「余りあるを待ちて人を済う、人を済うの日なし。暇あるを待ちて書を読まん、書を読むの時なし。」という古人の言葉があります。

余りができたら、人のお役に立つような働きをしよう。そういうことだと、何時までたってもそういう日はありません。暇が出来たら本を読もうといったって、暇がある時などありません。結局、今しかないのです。この制中、今を大事に務め上げようと思ひ取り組みましたが、余談多く、今を大事にする事の難しさを感じました。まだまだ修行は続きますので精進していきたいと思ひます。(今夏首座)